

宮城県議会グリーン・ツーリズム研究会 …報告書…

都市と農山漁村 人との交流

～ふるさとに誇りを持ち、子どもたちにつなぐ～



私たちの「宮城県議会グリーン・ツーリズム研究会」は本県におけるグリーン・ツーリズムの可能性をさらに広げようと、宮城県議会議員の有志で昨年(平成15年)の5月に立ち上げました。以来、共に農村と都市の交流や農山漁村での民泊を推進するための環境づくりや未来を担う子供たちのための食育・食農の里づくり等の研究を目的に、県内各地のグリーン・ツーリズム実践者の方々を訪れ、人の元気とおいしい魅力に出会うことができました。その中で、“農業・農村の体験に来た人々が農家に民泊するには、旅館業法・食品衛生法等の壁がある”ということを伺いました。この問題については、その後の勉強会を通じて、本研究会とむらづくり推進課を中心とした関係各課が共通課題として認識することができました。そして県では、昨年の11月に「体験学習に伴う農林漁家への民泊の実施方針」を定めました。この方針で、学校教育の一環として農家等に宿泊して体験学習をする場合、

旅館業法・食品衛生法上の許可なくして実施できることになりました。まだまだ第一段階の環境整備ではありますが、全国初の試みとして、宮城県のグリーン・ツーリズムが促進されることを期待したいと思います。またこの度、研究会の発足一年を記念して、むらづくり推進課の皆さんとの協働で心と力をあわせて、「みやぎ水・土・里(農村)とまちのいり端会議」 第一部 グリーン・ツーリズムシンポジウム(県主催)第二部 交流会(研究会主催)を開催することとなりました。この会によって、県内のグリーン・ツーリズムのネットワークが広がり、今年の11月に本県で開催予定の全国グリーン・ツーリズムネットワーク宮城鳴子大会に向けて大きく前進できることを願っています。

～メッセージ～

宮城県議会議長 渡辺和喜

宮城県議会グリーン・ツーリズム研究会の発足一周年と活動報告書が発行されるに当たりまして、心からお祝い申し上げます。現在、全国各地で暮らす人々との交流が盛んに行われております。この宮城の地が、訪れる方と滞在先の農山漁村の方々との熱い交流により、訪れた体験者の「第二のふるさと」になっていただければ、誠に喜ばしい限りです。

最後に貴研究会の今後の益々のご発展と会員の皆様方の一層のご健勝とご活躍を祈念いたします。



これまでの視察研修コース

岩出山コース…2003年7月30日(水)

西大崎『ばんつあん市』見学

西大崎地区のおばあさん方を中心に4月から11月までの間、週2回開催。何と朝5時開店だというのにその前から行列ができることもたびたびあるとか。

最大の売りはおばあさんたちがお客さんに野菜の食べ方や料理の仕方なども懇切丁寧に教えてくれることで、その面白い会話ゆえにリピーターも多い。とにかく元気なおばあさんたちでその元気に圧倒されました。

農家レストラン『凜彩 上の家』昼食体験

千葉家住宅を整備して、農家レストランとして蘇った施設。地元の方々に経営しており、食事も地元色を前面に出したもののばかり。当日は、バスの団体客が入っており、大盛況の昼食でした。器なども当時からのものをそのまま使用しており、100年ほどタイムスリップしたような気分を味わえます。

真山地区『田舎探検丸ごとツアー』見学

真山地区では、JRのお世話をいただきながら、夏休みに東京の子どもたちを2泊3日で受け入れています。今年で4年目となりますが、民泊した農家とすっかり仲良くなり2年連続で参加する子どももいるそうで、地域としても定着した事業となっています。東京の子どもはもちろんですが、地元の子どもたちにとっても山や川での体験が喜ばれており、いろいろな点を外から気づかせてもらっています。

角田・丸森コース…2003年8月26日(火)

丸森町『市民農園不動尊クラインガルテン』見学



農業を楽しみながら丸森の自然に親しみ、町民との交流を楽しんでもらうための施設としてクラインガルテンを平成12年4月に開設。全体で18区画あり、1区画約300㎡で、農園約150㎡と休憩施設43㎡を備えている。有機栽培の実践や町民との交流を条件に1年単位の契約で貸し出ししている。現在は、全区画貸し出し中。

『筆甫そば処 清流庵』見学

地域おこしにつなげたいと、かつて地区でよく食べられていた蕎麦を栽培し、平成11年11月にオープン。筆甫の自然・暮らしが育んだ風味豊かな蕎麦と、旬の食材を使った副食を提供している。年間に7～8千人程度の方が訪れ、蕎麦と自然を堪能している。

『ひっぽ森林のレストラン』昼食体験

地元の食材をふんだんに使った山の幸の郷土料理を食べてもらおうと、平成15年4月にオープン。地元農家と提携し、食材を確保するとともに、家族経営協定書を作り、家族の役割や約束事を明確にしてレストラン経営に励んでいる。季節によりメニューを変え、四季折々の料理を提供している。

(社)角田市農業振興公社

角田市と東京都目黒区の小学生の農村体験交流は、都市の小学生を受け入れるだけの一方通行から、住民同士の相互交流へ。そして、角田市農業振興公社の大きな事業である『あぶくま農学校』へと発展しました。

河北コース…2003年9月10日(火)

『のんびり村』（尾の崎）おもしろ体験学習

長面浦のほとりにある「のんびり村」は、築150年の木造の蔵のなかで田舎暮らしを楽しんでほしいとはじめて、今年で11年を迎えます。のんびり村の村長、坂下清子さんが笑顔で迎えてくれました。庭のハウスで、ナスやピーマンなどの収穫体験、続いて長面浦で採れたてのかにを網からはずす、かにはずし体験を行い、昼食は浜で採れた食材をふんだんに使った昼食を味わいました。家族で時を忘れてのんびりと田舎暮らしを楽しむリピーターが多いとのこと。地元の食材を使った料理を日夜研究している坂下さんのカニ飯、カニから揚げは、全国の食のアメニティで優良賞を受賞しました。民泊を始めたころから、制度の壁にあたり幾度となく関係機関に要望を続けた話を伺いました。

またその後、手作りの梅干、味噌などの生産している(有)テイスティ伊藤さんに立ち寄り、アグリビジネスについて意見交換を行いました。

栗原コース…2004年3月22日(火)

栗原コースの案内

今年3月「寅次郎心の旅路」のロケ地ともなったレトロ調の栗電に乗った私たち研究会は、若柳駅から沢辺駅に、そして有賀の里の農家民宿、地域の食材を調理された昼食をいただき、栗原のレストランへ。栗原のおいしい高原の水で入れたコーヒーを堪能し、鶯沢町の「かあちゃんレストラン」へ伺い、“はっと”をいただきました。季節の変わり目の春のお彼岸の季節。ほろ苦いふきのとうもおいしく、農村の交流と地域活性化への研究の旅が限りなく続きます。

コースの一例

若柳町役場出発⇒くりはら田園鉄道本社⇒若柳町『農家民宿 かたまった』⇒栗駒町『田舎暮らし』自宅ショップ⇒鶯沢町『かあちゃんレストラン』



「元気を分かち合うグリーン・ツーリズムを求めて」

県内の4つの地区を訪れ、それぞれにグリーン・ツーリズムを実践している方々のところで、聞く・話す・食べる・作る・買うなどなど、まさに宮城の農山漁村の懐の深さを痛感した研修となりました。そしてなんとといっても、多くの“人の元気”に出会えたことが大きな喜びとなりました。本当に『宮城は元気だ!』という思いを持ちました。

この“人の元気”を分かち合えるのが“グリーン・ツーリズム”なのかもしれません。単に観光地を見ていくというこれまでの過ごし方から、その土地の人に触れ、文化に触れ、風土に触れる、という一歩踏み込んだ『心の満足』を求めるようになってきたのだと思います。私たちは、宮城にはその期待にこたえるすべてがあると思っています。これからも現場の中から熱意と思いをいただきながら、訪れる人を迎える人の元気を分かち合うような宮城型“グリーン・ツーリズム”を目指していきたいと思っています。

相沢光哉

アイザワ ミツヤ

21世紀の日本をどう考えるか、というテーマをキーワードで見ると、少子化・地方分権・食と農・環境といった課題をどう解決し、元気な日本社会をどうつくり、持続させるかという方向が見えてくる。特に、出生率がこのまま進むと、国力の源泉である人口が大幅に減少するが、その流れの中で地方の存在価値を高めるには、グリーン・ツーリズムを中心に都市と田園との交流を増やし、日本人の時間・空間・心の価値観を改革すべきと思う。

内海太

ウツミフツシ

21世紀は自然と共生してさらにゆたかさを実感できる社会を創造してゆくことが大切といえる。ゆとりあるライフスタイルを営むうえでグリーン・ツーリズムの果たす役割は非常に大で、大いに期待されている。ヨーロッパに比べて遅れているが、宮城の各地でさまざまな障壁に苦労しながら特徴ある活動が推進されていることは心強い。この成功を全県に広め、気軽に利用できる体験型、滞在型のグリーン・ツーリズムと発展させ、地域の活性化をはかりたいものである。

加賀たけし

カガ タケシ

グリーンツーリズムとは、コンクリートジャングルの中で効率性と生産性を追及し続けてきた現代人の心を癒す空間の創出である。これまでの農村と都市の対立から相互提携関係へ変える大きな契機である。環境保全と内発的発展の視点から第一次産業を見直し、安全性や社会協同性や文化性の価値観を育て、生産者と消費者が姿の見える新しい人間関係の経済活動、人間らしい経済活動の出発点である。

川嶋保美

カワシマ ヤスミ

グリーン・ツーリズムは、生活・文化・資源・体験・観光など都市と農村の交流の場と地域の振興であります。現状において多くの改善点があります。目的や定義、概念をしっかりと確立し、業務として、交流として、その位置づけが必要であります。また、たえまない研究心と心強さが大切であります。目的の確立のため業務の環境づくりや研修・情報は不安や心細さを解消する最大方策であり、エネルギーとなります。その役割は、行政であり私たちにあります。あきらめない、あきらめられない、あきないをしなければなりません。共に研鑽し、共に実践しなければならないのであります。

坂下賢

サカシタ ケン

第一次産業が基幹産業であるわが県において、都市と農山漁村地域が交流し、自然や文化、郷土伝統などを体験したり、学んでいただくのに、グリーン・ツーリズムの活動は最適だと思います。私たちはこの研究を通じて、各地域におけるさまざまな活動や取り組みについて調査をし、広く県民の皆さんに情報を発信することで宮城の特性や産品、食材をPRし、都市と農村部の交流促進につなげていきたいと思っています。



私のグリーン・ツーリズム

それぞれの歴史・故郷がそれぞれのグリーン・ツーリズム

サカシタヤスコ

坂下康子

私の父の生まれ故郷、河北町民崎の実家では“のんびり村”という農漁村民宿を開いております。今ではグリーン・ツーリズムのさきがけとしてたくさんの方々に知られておりますが、私自身、身近すぎる場所ということで、その良さを当たり前と受け止めていた自分を反省する今日この頃です。アサリのようにおきなシジミや、カキなどは友人知人にとっても喜ばれるイチ押しの逸品。北上川沿いから見る夕陽の美しさも懐かしい思い出です。

中島源陽

ナカジマ モトハル

「本来の人間」というのは存在すると思いますか？
私は文明の高度化を追い続けてきた結果、「存在した」という過去形になりつつあるのではないかと思います。しかしながら一方では、小川の冷たい水の中に手を突っ込んで魚を手づかみするような、体中に心地よい刺激を与える農村での体験も見直されてきています。いわゆる“グリーン・ツーリズム”です。このグリーンツーリズムこそが私たちを「本来の人間」に近づけてくれることでしょう。

長谷川洋一

ハセガワ ヨウイチ

農林業の活性化、農山村の振興を図るには、地域住民はもとより、都市住民が参画し、地域と都市の住民の交流が盛んになることである。そのキーワードは「やる気」「ホスピタリティ」「ネットワーク」、そして「ないものねだり」ではなく「あるもの探し」。地域にあるものにちょっと手をかけてやると「物語づくり」「こだわり」でチャンスはあると思う。

ゆさみゆき

ユサミユキ

角田市と農業体験交流を行っている東京目黒区の小学生はご飯を食べる時、百姓先生と田んぼを思い出し、一粒の米も残さなくなった。農業は、子どもたちに命の育み、大切さを教えてくれる。農村と都市の人とところの交流により、農村に住むひとり一人がふるさとに誇りを持ち、新たな生活文化や生活スタイルを創り出す「地域づくり」そのものが「東北・みやぎのグリーン・ツーリズム」の源だと思う。



ワタナベ チュウエツ

渡辺忠悦

不勉強で不案内のまま約一年間のグリーン・ツーリズム研究会に参加して参りました。私にとって身近なことでありますが、本気で楽しくやることかなと感じました。丸森町のひっぽ地区で地元の方々と行政とがうまく協力して豊かな自然、おいしく、なつかしい伝統食、時間がゆっくりの生活、私などは忘れていました時空を体験できて、感動でした。宮城のそれぞれで持ち味を生かした、再発見と田舎の良さを実感しました。

伊勢敏

イセサトシ

宮城県にグリーン・ツーリズムを広め、スピード社会からスロー社会への転換を図りたいものです。日本農山村の原風景が醸(かも)し出す景観と雰囲気の中で、四季折々のゆったりした時間を楽しめることが、グリーン・ツーリズムの成功の鍵を握っていると思います。より良い景観を形成し地域全体の魅力を育むとともに、人々がゆとりの時間を創造することが重要なポイントだと考えます。グリーン・ツーリズムは、生き方にも関わる大切なものです。

みやぎ・水・土・里(農村)とまちのいろいろ端会議 ～あったか宮城で!! スローなひととき～

■と き：平成16年6月7日(月) 13:00～16:00(第一部シンポジウム)
16:10～18:00(第二部交流会)

■ところ：宮城県庁 2F 「講堂」(第一部シンポジウム)
宮城県庁 18F 「ごっつおう十八番」(第二部交流会)

■参加費：無料(第一部シンポジウム)
3,000円(第二部交流会)

■主 催：宮城県(第一部シンポジウム)
宮城県議会グリーン・ツーリズム研究会(第二部交流会)

■参加数：200名(先着順)

第一部…グリーン・ツーリズムシンポジウム(13:00～16:00) 司会／大葉 由佳

- 1、オープニング『画像で見るみやぎの景観、グリーン・ツーリズム』
- 2、基調講演『食の交流・こころの交流』 結城 登美雄 (民族研究家)
- 3、パネルディスカッション
コーディネーター…結城 登美雄 (民族研究家)
パネラー…後藤 新平(加美町グリーン・ツーリズム推進会議事務局)
渋谷 文枝(「農家レストラン ふみえはらはん」経営)
千葉 静子(「農家民宿 かたまった」経営)
芦立 千佳子(NPO法人まちづくり政策フォーラム事務局長)
- 4、いろいろ端会議(意見交換会) 大葉 由佳

第二部…みやぎ食・味・技の交流会(16:10～18:00)

山・海・大地の
幸が勢ぞろい!!

menu

丸森町…ひっぽ森林のレストラン「へそ大根料理」
丸森町…清流庵「そば」
田尻町…蔵楽「ソーセージ」・嫁っこ「ライスバーガー」
加美町…花袋・天王「ざるとうふ」
ふみえはらはん「草餅・漬物」
鳴子町…やまが旬の市「みず料理」
河北町…のんびり村「かに飯」「かにの唐揚げ」
迫 町…くんべる「はっと汁」
志津川町…慶明丸「海の幸」
ごっつおう十八番…「竹の子ご飯」「豆乳の茶碗蒸し」

地ビール

角田市…仙南シンケンファクトリー
鳴子町…鳴子の風
加美町…やくらいビール
迫町…北緯39°麦酒

地酒

高清水町…はさまや酒造店
加美町…中勇酒造店
鳴子町…高橋酒店(新澤酒造)

宮城県議会グリーン・ツーリズム研究会 メンバー

相沢 光哉 青野 登喜子 渥美 巖 伊勢 敏 内海 太 小野 隆
加賀 剛 川嶋 保美 菅間 進 菊地 文博 坂下 賢 坂下 康子
佐々木 敏克 佐藤 光樹 菅原 実 寺島 英毅 中沢 幸男 中島 源陽
長谷川 章 長谷川 洋一 袋 正 藤原 範典 皆川 章太郎 百足 健一
本木 忠一 遊佐 美由紀 渡辺 忠悦